

海岸部へ防災用放送設備を

光ケーブルで検討する

問 昨年、一般質問で取り上げた海岸部への放送設備について、その後、必要性和事業費等の検討は行なったか。

答 松本 情報防災課長

津波浸水予想エリアへの無線による拡声設備については、緊急性も含めて必要だと強く認識をしている。

事業費の検討については、町の概算設計による試算で目安となる事業費は、全町をデジタル防災行政無線化すると、8億8千万円。沿岸部の津波

に襲われる危険がある地域に敷設した場合6億円。沿岸部の集落密集地域のみの場合3億円。佐賀地域においては現在のアナログの防災行政無線を活用し、大方地域のみを行なった場合は2億円という概算をしているが、活用できる補助事業はなく、財源確保が困難なことから、事業実施に向けた具体的なスケジュールはいまだ定まっていない。

問 防災行政無線で、事業費が多く掛かるならば、町全体の広いエリアでなく、ポイントを絞り、人が多く集まる町の所有する施設である大方球場付近に、無線ではなく有線でスピーカーを3基ほど設置すれば、安価でかなりのエリアをカバーできるのではない

か。

大方球場付近では、野球は

もちろんのこと、グラウンド

ゴルフやソフトボール、またサーフィン、サイクリング、ジョギング、ウォーキング等の利用者が多い。キャンプ場やラッキョウ畑等もあり、大会等がある時は、500人を超える人口がその周辺にいる場合がある。

より多くの人命を守るための防災対策の必要性として考えてみれば、この付近にいる人たちは、建物の下敷きになることもなく、いち早く情報を得て、すぐに避難行動に移すことができれば、助かる可能性が高い。

球場までは、電気が来ており、使用できる電柱もある。有線で放送設備を整えれば、比較的安くできるのではない

答 松本 情報防災課長

町の防災上の考え方としては、人が多く集まる所には告知端末など、情報がすぐ伝えられる設備が必要だと思っている。県の施設には県が、町の施設については町が設置す

るべきだと考えている。

大方球場は最近、合宿等で活用も増え、今後も利用者は増えると思われるので、町の防災計画に基づく避難勧告、避難指示ができる設備の導入は必要だと考えている。

その費用については、大方球場に光ケーブルを張る場合に、最短距離348mくらいで、既設の電柱で対応可能。引き込み費用は、概算で約38

万円。告知端末から拡声器につないで音を出す設備に掛かる費用が、別途57万円ぐらいの費用で出来ると思われるので、今後検討をしていく。

【その他の質問】

※人脈活用について
※参議院選挙の合区について



こまつ たかとし 議員
小松 孝年



大方球場付近の様子